

団体名	宮城教育大学附属国際理解教育研究センター							
事業名	宮城県内の小中高等学校のグローバル化促進・協力事業							
実施期間	2016年5月1日～2017年1月31日							
場 所	宮城県内の小学校、中学校、高等学校、大学							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	164			2,812		27		3,003名

<実施内容>

本学は、県内唯一の教員養成大学であり、教員志望の留学生も多く、急速に進む国際化・多文化共生への対応を迫られる学校現場に対し、数年にわたり留学生と訪問し、国際交流活動を行っています。そこで、本年度は、助成金を活用し、児童生徒、地域の特徴に合わせたプログラムを県内の小学校20校に留学生を派遣した他、1校の中学校への留学生派遣、高校生を対象とした国際理解教育の授業の実施を1回、県内の高校で行っている「イングリッシュカフェ」へ5回に渡り留学生を派遣しました。さらに、小学校での国際交流活動では、留学生の国の教育や遊びについて紹介してほしいという要望が多いことから、活動前の事前学習の教材として活用できる、10ヶ国の教育制度や遊びをまとめた冊子を作成した。

<記録写真>



◆ある小学校で国際交流活動の様子



◆留学生と共に学ぶ国際理解教育



◆事前学習用教材表と裏表紙

<参加者からのコメント>

マダーラーさん(スリランカ)/Madara

ダーランさん(インドネシア)/DahLan

かわいくて元気な子どもたちと交流できて良かったと思います。子どもたちがたくさん質問してくれたので、色々なことを教えてることができ、いい交流活動でした。

子どもたちの日本の文化についての発表はとてもよく準備されていて、子どもたちの自信にもつながっていたと思います。